

医療の価値評価を目指すセミナー 「医療価値評価の胎動プログラム」

- **目的:** 社会と医療、経済と医療の関係(あり方)について、広い観点から学術的な議論を進めることを主旨とする。特に、医療の価値(Value of Medicine)を探求し、得られた成果を社会全体で活用する人材の育成を目的とする。
- **対象:** 上記趣旨に関心のある医療従事者、関連学生、企業就業者、行政従事者など
- **時期:** 2017年10月～2018年3月(計15回)
- **場所:** 東京大学医学部附属病院内および大学構内
- **日程:** 次頁参照
- **会費:** 1名につき税込11,000円 (シンポジウム参加費は別)
- **参加条件:**
 - ① 基本的に、全ての開催日程に出席を予定する方
 - ② 事前に参加者登録した方に限る(9月15日までに申し込み)
 - ③ 一定条件の参加者に、修了書の発行を予定



【備考】

・本セミナーは初年度の試行的な取り組みのため、プログラムの構成は適宜変更をされる場合があります。

【補足】

・諸条件を満たせば、ビックデータによる実際の研究と連携したOJTプログラムを実施することも可能であります。

■ **主催:** 東京大学大学院医学系研究科 医療経済政策学講座 ■

後援: 日本再生医療学会、日本IBM

『お問い合わせ先』

医療価値評価の胎動プログラム事務局

URL: <http://plaza.umin.ac.jp/hehp/publication.html#item4-1>

電話: 03-5800-9523 FAX: 03-5800-8948 Mail: value-s@umin.ac.jp

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学 大学院医学系研究科 医療経済政策学講座内 担当: 宿谷

プログラムスケジュール表

講義 番号	テーマ構成	概要	講師 (敬称略)	日程・会場
オリエンテーション: 10月4日(水)18時30分から、東大病院 管理研究棟2階 第一会議室				
1. 医療・介護を取り巻く社会経済の動向				
1	(1) 保険政策	わが国の保険行政(医療材料系)について概観し、今後の方向を読み解く	金光 一瑛 (厚生労働省)	10月11日(水) 18時30分 会場: 東大病院 管理研究棟2階 第一会議室
2	(2) 薬事政策	国内外の薬事政策(医療材料系)について俯瞰し、今後の動向を占う	方 眞美、小野 昭子 (医薬品医療機器総合機構)	10月18日(水) 18時30分 会場: 東京大学医学部2号館1階 小講堂
3	(3) 社会経済政策総論(財政論等、公共制度論含む)	わが国の実体経済を背景に、医療政策の論点や社会保障政策の潮流を解説する	森田 朗 (津田塾大学)	10月27日(金) 18時30分 会場: 東大病院 管理研究棟2階 第一会議室
2. 医療分野における価値評価の基本概念				
4	(1) 行動経済学	内外のケースを紹介しつつ、行動経済学の概念や基本理論を解説する	友野 典男 (明治大学)	11月10日(金) 18時30分 会場: 東大病院 入院棟15階大会議室
5	(2) 価格理論(効用理論等含む)	効用水準や選択行動、価格形成の理論を概観し、医療における価格のあり方を論じる	田倉 智之 (東京大学:医)	11月17日(金) 18時30分 会場: 東京大学医学部2号館1階 小講堂
6	(3) QOL分析	患者アウトカム評価の動向を踏まえ、健康関連QOLの測定や分析を解説する	下妻 晃二郎 (立命館大学)	11月22日(水) 18時30分 会場: 東京大学医学部 1号館1階 講堂
7	(4) 費用分析	医療分野における費用の概念と構造、その解析手法や留意点(機会費用等)を共有する	荒井 耕 (一橋大学)	11月29日(水) 18時30分 会場: 東大病院 入院棟15階大会議室
3. 医療の経済価値評価の理論と手法				
8	(1) ビックデータ解析法(事例紹介を含む)	ビックデータを活用した医学研究の意義と今後の方向性について事例を交え解説する	康永 秀生 (東京大学:医)	12月13日(水) 18時30分 会場: 東京大学医学部 1号館1階 講堂
9	(2) 医学統計学(研究デザイン論を含む)	臨床研究のデザイン検討に関わる知識と最新の統計手法を解説する	笹渕 裕介 (自治医科大学)	12月22日(金) 18時30分 会場: 東大病院 入院棟15階大会議室
10	(3) モデリング手法(ベイズ統計等も交え)	マルコフ連鎖やモンテカルロ法等のシミュレーション技術に関する基本理論を学ぶ	伊庭 幸人 (統計数理研究所)	1月10日(水) 18時30分 会場: 東大病院 中央診療棟27階大会議室(1)(2)
11	(4) 費用対効果分析	費用対効果分析の基礎(国際GL)と最新の手法を各種の留意事項とともに解説する	鎌江 伊三夫 (東京大学:公)	1月19日(金) 18時30分 会場: 東京大学医学部2号館1階 小講堂
12	(5) ソフトウェア応用	SPSS等を用いた解析アプローチについてケーススタディを行う(ハンズオンは未定)	西澤 英子 (日本IBM)	1月26日(金) 18時30分 会場: 東京大学医学部2号館1階 小講堂
4. 医療分野における経済評価のケース(医療政策と医療技術)				
13	(1) 事例1と2(医療技術:分子標的薬、埋込デバイス等)	医薬品及び医療機器の経済価値評価(費用対効果含む)の評価事例を解説する	田倉 智之(東京大学:医)、武井 卓(京都健康長寿医療)	2月9日(金) 18時30分 会場: 東京大学医学部 2号館1階 小講堂
5. 医療分野における価値評価の問題(留意事項と必要条件)				
14	(1) 討論1(意思決定)	エビデンスに基づく治療戦略、政策の意思決定に関する議論を行う	秋野 公造(参議院議員)、南学 正臣(東京大学:医)	2月28日(水) 18時30分 会場: 東京大学医学部 教育研究棟14階 鉄門記念講堂
15	(2) 討論2(倫理と振興)	倫理観に基づく研究推進やイノベーションのあり方について議論する	黒木 登志夫(日本学術振興会)	3月2日(金) 18時30分 会場: 東京大学 医学部2号館1階 小講堂
6. シンポジウム				
	・総合討論	プログラムの成果報告も兼ねて最後にシンポジウムを開催する	—	3月17日(土) 9時30分-12時30分 会場: ステーションコンファレンス東京

医療価値評価の胎動プログラム

本プログラムの主旨

本年度より、東京大学大学院医学系研究科の医療経済系の講座に関わる有志が、医療の価値評価を目指す「医療価値評価の胎動プログラム」を試行的に始めます。本プログラムの具体的な目標として、例えば、以下のような医療経済評価の研究成果を創出するのに必要となる各種知識の修得やノウハウの研鑽を行う機会の提供を標榜しつつ、当該分野のリーダーシップ人材の輩出や関連するエビデンスの蓄積の促進を目指しております。

- 医薬品の経済価値評価の例（創薬イノベーションの価値）
 - ・ネイチャーグループ（NPG）の Scientific Reports. (IF:5.228, 2017)
 - ・Cost-Effectiveness of Administering Rituximab for Steroid-Dependent Nephrotic Syndrome and Frequently Relapsing Nephrotic Syndrome: A Preliminary Study in Japan.
(Tomoyuki Takura, Takashi Takei, Kosaku Nitta)
- 医療機器の経済価値評価の例（重症患者の救命価値）
 - ・日本人工臓器学会オフィシャル雑誌の J Artif Organs. (IF:1.438, 2015)
 - ・Preliminary report on the cost-effectiveness of ventricular assist devices.
(Tomoyuki Takura, Shunei Kyo, Minoru Ono, et al)

プログラムの詳細は、添付のセミナー構成などをご覧頂ければ幸いです。価値評価の基本概念や臨床経済評価の理論と手法（費用対効果分析も含む）、医療技術の経済価値評価のケース（医薬品と医療機器等）、医療分野における価値評価の問題（研究倫理）などを体系的に修学することを標榜しております。また、ビッグデータ（300 万件×5 年間）による実際の研究と連携した O J T プログラムも並走できる特徴も有しています。講師陣には、東京大学内はもとより国内著名大学、厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、統計数理研究所の第一線で活躍される方々を予定しております。

なお、本プログラムのご参加にあたっては、身近な問題意識などを踏まえつつ、事前に、検討したい論点や課題（疑問）の設定をお勧めいたします。本プログラムにおける 15 回の講義及びシンポジウムの受講過程、または O J T 研究の取組みの中で、是非、その解決や取っ掛かりを見つけて頂ければ有意義と推察します。

多様なチェンジ・ドライバーが顕在化する昨今の医療・介護分野を背景に、本プログラムのそれぞれのコンテンツを自然体で楽しみつつも、今後のご活動の中で、参加によって得られた成果利用の最大化を志向して頂ければ幸いです。

カリキュラムの構成

科目分類	必須科目	選択科目
1. 医療・介護を取り巻く社会経済の動向	(1) 保険政策、(2) 薬事政策、(3) 社会経済政策総論（財政論等、公共制度論含む）	ビッグデータを利用した分析実習（OJT 研修） ⇒ 分類 6 (1) 項の成果報告等と連携 - SPSS、TreeAge、SAS、STAT 等の実習を含む
2. 医療分野における価値評価の基本概念	(1) 行動経済学、(2) 価格理論（効用理論等含む）、(3) QOL 分析、(4) 費用分析	
3. 医療の経済価値評価の理論と手法	(1) ビッグデータ解析法（事例紹介を含む）、(2) 医学統計学（研究デザイン論を含む） (3) モデリング手法（ベイズ統計等も交え）、(4) 費用対効果分析、(5) ソフトウェア応用	
4. 医療分野における経済評価のケース（医療政策と医療技術）	(1) 事例 1 と 2（医療技術：分子標的薬、埋込デバイス等） （注）ケーススタディは、本邦における医用薬品と医療機器の費用対効果分析を予定する	
5. 医療分野における価値評価の問題（留意事項と必要条件）	(1) 討論 1（意思決定）、(2) 討論 2（倫理と振興） （注）倫理は、研究を推進するにあたっての分析のモラルや品質管理を中心とする	
6. 成果報告・各種討議（シンポジウム）	(1) 費用対効果分析等の成果報告、(2) 総合討論	
修了証の要件	(1) 出席 12 講義（80%）以上の出席とする。なお OJT 研修（選択）で当要件を補足する。 (2) レポート プログラム終了時に、レポートを提出する。主催者や講師陣により評価を受ける。	OJT 研修で補完が可能
課程との連携	(1) 修士・博士課程を希望する場合は、東京大学医学部等の社会人入学等と連携する （備考：主に大学院医学系研究科の公共健康医学専攻（SPH）を念頭） (2) 論文を作成・発表する場合は、他大学の学位審査も状況に応じて検討可能とする	OJT 研修の成果を活用

項 目 名	保険政策		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：金光 一瑛 (厚生労働省)		
授 業 の 目 的	・わが国の保険行政 (医療材料系) について概観し、今後の方向を読み解く。 ・医療機器および医薬品等の保険収載の仕組み (医療政策論)、および産業振興政策 (医療産業論) や医療財政管理論を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	薬事政策		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：方 眞美、小野 昭子 (医薬品医療機器総合機構)		
授 業 の 目 的	・国内外の薬事政策 (医療材料系) について俯瞰し、今後の動向を占う。 ・医療機器および医薬品等の薬事承認の仕組み (承認制度論)、および産業振興政策 (医療産業論) や品質管理論、技術評価論を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	社会経済政策総論 (財政論等、公共制度論含む)		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：森田 朗 (津田塾大学)		
授 業 の 目 的	・わが国の実体経済を背景に、医療政策の論点や社会保障政策の潮流を解説する。 ・医療財源の動向や人口動態の予測などを踏まえ、医療における需要と供給 (医療財政論、医療経営論)、および産業振興政策 (医療産業論) を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	行動経済学		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：友野 典男 (明治大学)		
授 業 の 目 的	・行動変容に関わる内外のケースを紹介しつつ、行動経済学の概念や基本理論を解説する。 ・心理学／行動科学を背景に、公共政策などにおける行動変容や選択モデルの手法 (行動経済学) を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	価格理論 (効用理論等含む)		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：田倉 智之 (東京大学：医)		
授 業 の 目 的	・効用水準や選択行動、価格形成の理論を概観し、医療における価格のあり方を論じる。 ・医療の特性や需要供給の構造を背景に、価格水準論 (価格形成、機会費用)、効用理論、価値評価学を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	QOL 分析		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：下妻 晃二郎 (立命館大学)		
授 業 の 目 的	・患者アウトカム評価の動向を踏まえ、健康関連 QOL の測定や分析を解説する。 ・患者報告アウトカム (PRO) や健康関連 QOL (HRQOL)、質調整生存年 (QALY) 等の特性とその活用例を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	費用分析		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：荒井 耕 (一橋大学)		
授 業 の 目 的	・医療分野における費用の概念と構造、その解析手法や留意点 (機会費用等) を共有する。 ・会計学 (PL/BS)、原価計算 (ABC 分析) の理論や手法、診療報酬請求の構造を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	ビックデータ解析法 (事例紹介を含む)		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：康永 秀生 (東京大学：医)		
授 業 の 目 的	・ビックデータを活用した医学研究の意義と今後の方向性について事例を交え解説する。 ・ビックデータの概念や対象ソース、分析手法 (バイアス軽減)、長所と短所を学び、実際の分析結果 (公表論文) に触れる。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	医学統計学 (研究デザイン論を含む)		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ (90 分-120 分)
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分 (延長で 20 時 30 分)		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：笹渕 裕介 (自治医科大学)		
授 業 の 目 的	・臨床研究のデザイン検討に関わる知識と最新の統計手法を解説する。 ・医学研究の戦略やデザインの種別、エビデンスレベルの概念と整理方法、統計一般やシステマティックレビューやメタ解析、生存時間分析、傾向スコアや多変量解析の手法を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	モデリング手法（ベイズ統計等も交え）		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ（90 分-120 分）
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分（延長で 20 時 30 分）		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：伊庭 幸人（統計数理研究所）		
授 業 の 目 的	・マルコフ連鎖やモンテカルロ法等のシミュレーション技術に関する基本理論を学ぶ。 ・ベイズ定理や確率統計、マルコフ推定や定常分布、乱数アルゴリズムや機械学習の基礎を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	費用対効果分析		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ（90 分-120 分）
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分（延長で 20 時 30 分）		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：鎌江 伊三夫（東京大学：公）		
授 業 の 目 的	・費用対効果分析の基礎（国際・国内ガイドライン）と最新の手法を各種の留意事項とともに解説する。 ・費用対効果分析の歴史、増分費用効果比（ICER）の手法、意思決定ツリー、ネットワークメタアナリシスの概念等に触れる。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	ソフトウェア応用		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ（90 分-120 分）
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分（延長で 20 時 30 分）		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：西澤 英子（日本 IBM）		
授 業 の 目 的	・SPSS 等を用いた解析アプローチについてケーススタディを行う（ハンズオンは OJT 研修と連携）。 ・母集団、推定・検定、多変量解析、傾向スコア等の統計手法、モンテカルロ法やマルコフ連鎖等のモデリングの実際を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	事例 1 と 2（医療技術：分子標的薬、埋込デバイス等）		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ（90 分-120 分）
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分（延長で 20 時 30 分）		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：田倉 智之（東京大学：医）（小野稔先生の講話）		
授 業 の 目 的	・医薬品及び医療機器の経済価値評価（費用対効果含む）の評価事例を解説する。 ・分子標的薬の医療経済評価の分析報告（本邦のレジメン）、埋込デバイスの費用対効果評価の分析報告（本邦の臨床試験）を、批判的吟味を行いつつ学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	討論 1（意思決定）		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ（90 分-120 分）
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分（延長で 20 時 30 分）		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：秋野 公造（参議院議員）、南学 正臣（東京大学：医）		
授 業 の 目 的	・エビデンスに基づく治療戦略、政策の意思決定に関する議論を行う。 ・臨床意思決定や政策決定のプロセスや課題、今後の在り方に触れる。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	討論 2（倫理と振興）		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	1 コマ（90 分-120 分）
曜日・授業時間帯	水曜日または金曜日、18 時 30 分~20 時 00 分（延長で 20 時 30 分）		
場 所	付属病院および医学部の各種教室		
担 当 教 員	講師：黒木 登志夫（日本学術振興会学術システム）等		
授 業 の 目 的	・倫理観に基づく研究推進やイノベーションのあり方について議論する。 ・研究倫理に関わるガイドラインやケース（医薬の費用対効果の例）、創薬（新薬）のプロセスや上市確率動向、医療産業の産業構造や競争力、産学連携によるイノベーション動向を学ぶ。		
授 業 の 方 法	系統講義。		

項 目 名	総合討論		
学 期	平成 29 年度後期	時 間 数	2 コマ (180 分-240 分)
曜日・授業時間帯	土曜日、9 時 30 分~12 時 30 分 (延長で 13 時 30 分)		
場 所	東京駅周辺の会議室		
担 当 教 員	講師：複数名 (別紙)		
授 業 の 目 的	・プログラムの成果報告も兼ねて最後にシンポジウムを開催する。 ・OJT 研修による費用対効果分析等の結果報告、研究開発・医療政策系の有識者の基調講演、ビッグデータや費用対効果に関する討論会から構成する。		
授 業 の 方 法	シンポジウム。		

(選択)

項 目 名	O J T 研修 (ビッグデータを用いた分析実習)		
学 期	平成 29 年度後期 (延長可)	時 間 数	4 コマ (360 分-480 分)
曜日・授業時間帯	不定日		
場 所	東京大学附属病院内 (主に医療経済政策学講座)		
担 当 教 員	講師：複数名		
授 業 の 目 的	・セミナーで得た知識を踏まえつつ、370 万件のビッグデータを活用して医療技術評価 (HTA) の分析を実施する。 ・医学統計解析、費用対効果分析等を、SPSS、TreeAge、SAS、STAT などのソフトウェアを利用して進める。研究デザインの検討、図表の作成方法、分析結果からの考察のみならず、医学論文の構成や医療用データベースの構造等についても学ぶ。		
授 業 の 方 法	実習講義。		

聴講生に対する補足資料

【付帯内容】

本プログラムは、個別テーマを各人が設定し実際のビッグデータを用いながら、医療材料や他の医療技術の費用対効果分析（価値評価）のOJT研修（＋成果は論文文化が可能）を展開する形態も可能です。

【メリット】

- ①医療材料の経済価値評価を具体的に展開（個別のテーマは事前に相談・選定）
- ②諸条件を満たせばビッグデータ（約 370 万件×6 年間）を小負担で活用可能
- ③研修生や大学院生も志向するのであれば学位取得へも利用（企業派遣も含）
（注）一定条件（資格、熱意、知見等や使用要件の遵守）を満たすものに限る
- ④研究(分析等)に必要な知見(理論、手法、情報)はセミナー等でも習得が可能

（※）実データ解析を併用した研修参加についての詳細は別途相談を願います。

以上

ビッグデータのOJT研修

ー 概要について ー

1. データの種別

主に診療報酬請求情報

2. データの範囲（詳細は添付資料1）

（1）件数

対象者数で370万件以上（月次で増加の予定）

（2）期間

過去6年程度の名寄せ処理済のもの

（3）項目

医科外来、医科入院（DPC）、調剤、歯科等

（4）地域

基本的に全国

（5）年齢

基本的に全年齢帯（国保と健保のデータ結合）

3. 利用の諸条件

（1）支援体制

ベンダーによるデータセット（抽出・クリーニング）等は可能

（2）使用条件

いわゆる臨床研究指針に則った条件を満たす資格・環境、諸条件が前提

（3）経済負担

研究内容（又は目的）に即して直接経費の一部を負担する必要がある
（純粋な学術目的であれば数万円程度を想定）

4. 分析のテーマ例

現在、研究事業を立ち上げる方向にある、主なテーマを以下に示す。

- ・リュウマチ薬の費用対効果の分析
- ・心臓リハビリテーションの費用対効果の分析
- ・心臓埋込ポンプの費用対効果の分析
- ・疼痛治療薬の医療経済評価の分析
- ・整形インプラントの医療経済評価の分析
- ・歯周炎予防の医療経済評価の分析

以上

「医療価値評価の胎動プログラム」 シンポジウム

医療価値評価を始めてみよう

平成30年3月17日(土) 9:30～12:30

9:30～9:40

1. オープニング 田倉 智之 先生(東京大学)

9:40～10:40

2. シンポジウム_1「医師技術・病院経営の医療経済価値を考える」

座長:田倉 智之 先生(東京大学)

- 外科療法などを取巻く診療報酬動向
岩中 督 先生(埼玉県病院事業管理者、外保連会長)
- 内科診療などの医師技術経済価値
工藤 翔二 先生(結核予防会理事長、内保連代表)
- 総合討論

10:40～11:20

3. 医療経済価値の評価分析事例の中間報告会

座長:大野 達也 先生(群馬大学)

- 抗リウマチ生物学的製剤の費用対効果評価
藍野 敬彦 氏(あゆみ製薬)
- フォローアップ冠動脈造影の医療経済学的研究
平野 景子 氏(順天堂大学)

11:20～11:25

4. 修了証の授与式

11:25～12:25

5. シンポジウム_2

「ビッグデータで医療経済評価のコントロール群を論じるのは可能か」

座長:方 眞美 先生(医薬品医療機器総合機構)

- ・方 眞美 氏(医薬品医療機器総合機構)
- ・野尻 宗子 氏(順天堂大学)
- ・舟窪 美奈子 氏(ノバルティスファーマ)
- ・藤田 克憲 氏(日本メドトロニック)

コメンテーター: 田倉 智之 先生(東京大学)

12:25～12:30

6. クロージング 小野 稔 先生(東京大学)

【主催】東京大学 大学院医学系研究科 医療経済政策学講座

【会場】トラストシティ カンファレンス・丸の内

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワーN館11階

【後援】日本再生医療学会、日本IBM

【参加費】1,000円

問
合
せ
先

医療価値評価の胎動プログラム事務局 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

☎ 電話 03-5800-9523 ☎ FAX 03-5800-8948 ✉ Mail value-s@umin.ac.jp

東京大学 大学院医学系研究科 医療経済政策学講座内 <http://plaza.umin.ac.jp/hehp/publication.html#item4-1>



修了証の取扱について

東京大学大学院医学系研究科医療経済政策学講座が主催する「医療価値評価の胎動プログラム」における修了証の取り扱いについて以下のように定めます。なお、初年度の試行的なプログラム展開のため、今後、多少の変更がありますこと予めご理解願います。

➤ 修了証の発行要件について

本プログラムに参加した者に関して、以下の要件を満たす場合、「修了証」を発行する。

- ・全講座の80%以上の出席を最低要件とする（12回の出席）。途中退席などについては、個別に関連状況を考慮する。
- ・プログラム参加の後、レポートの提出を行う（A4で約2頁）。内容については、主催者や講師陣により評価を受ける。

（ビックデータを用いたOJTにて研鑽される方への補足事項：

OJT研究プログラムを推進し、研究計画書以上の段階に至っている方は、上記の第2項を免除する。また、準参加者については、上記第1項で4回分を調整する事を可能とする）

（参考）修了証のイメージ



以上

【医療価値評価の胎動プログラム（2017 年度）】

修了レポート

ご氏名：_____（受講番号：_____）

1. 医療経済系の価値評価に関わる課題設定（問題意識や参加背景等を）

2. プログラム受講によって得られた知見等（1 項の解決、新たな疑問）

3. その他として、医療経済系の価値評価に関わる意見や抱負等について

以上